「東日本大震災」の対応について

～初動対応～復旧・復興に向けて～

熊谷　順子

「東日本大震災」の対応について

－ 初動対応～復旧・復興に向かって －

水防ＤＡＹ防災講演会の記録より
とき：平成 24 年 5 月 26 日
於　：飯島町文化館

―― 目　　次 ――

はじめに …… 4
過去からの備え …… 5
防災ヘリ「みちのく号」が残した映像 …… 7
津波映像（ＣＣＴＶより） …… 17
東日本大震災の概要 …… 20
地震発生からの流れ …… 21
ヘリを緊急発進 …… 22
津波襲来 …… 23
被災前後の状況　岩手県陸前高田市 …… 26
被災の状況　宮城県南三陸町 …… 27
災害対策室（３／１１夜） …… 28
気仙沼国道維持出張所の被災状況 …… 31
大畠国土交通大臣とのテレビ会議 …… 32
テレビ会議メモ …… 33
道路啓開 …… 34
港湾における航路啓開 …… 42
仙台空港“再生” …… 43
緊急復旧（河川） …… 44
陸・海・空路の啓開 …… 46
道路の「啓開」が早い理由について …… 46
応急復旧（道路） …… 47
緊急復旧（河川） …… 49
緊急復旧（海岸） …… 50
応急復旧（港湾） …… 51
地域支援 TEC-FORCE（テックフォース緊急災害対策派遣隊） … 52
災害対策機械 …… 54
リエゾン（災害対策現地情報連絡員） …… 56
支援物資調達 …… 57
長野県の支援 …… 59
日本海側からの支援 …… 59
小本小学校避難階段 …… 60
仙台東部道路による減災 …… 61
命の道となった釜石山田道路（三陸縦貫自動車道） …… 62
高台に避難する小中学校の生徒たち …… 63
教訓・反省 …… 64
各市町村の復興計画策定状況 …… 66
復興道路・復興支援道路 …… 67
海岸堤防高さの設定について …… 68
各地域海岸の堤防高（現況・計画・新計画） …… 68
南海トラフ最大級地震想定（中間報告） …… 69
過去二千年間の東日本太平洋側の巨大地震 …… 70
東海、東南海、南海地震の発生間隔 …… 70

はじめに

ただ今ご紹介いただきました熊谷と申します。本日は『東日本大震災の対応について　初動対応～復旧・復興に向かって』と題してお話をさせていただきます。最初に、今回の東日本大震災に際しましては全国から大変に大きなご支援を頂いていますことに厚く御礼を申し上げます。長野県の皆様からも、中部地方整備局の職員、そしてオペレーターとして現場にずっと張り付き実際に大変な仕事をしていただいた皆様もいらっしゃるかと思います。本当にありがとうございました。お蔭様で少し歩みは遅いものの、東北は徐々に応急復旧から本格復旧になって、これから復興の段階になっています。しかし１万９千人を超える方が死亡あるいは行方不明になっており、また被災範囲も太平洋側の岩手県・宮城県・福島県の非常に広い範囲の被災ですので、その歩みは大変に遅いです。そして今回の福島第一原発の事故があり、その関係で福島県の浜通り、特に双葉郡は全く手つかずの状態で未だに除染も進んでいません。さらには福島県全体の風評被害、あるいは実際に放射線量が高かったりして、なかなか本格復旧に入れないという状態で、今回の災害は、地震と津波とそれに原発という、三重苦に喘いでいるような災害です。

今日、私がお話しできるのは東北地方整備局が大震災に対してどのような対応をしたかという限られたお話ししかできません。例えば消防の方がどういう活躍をされたとか、病院の方々がどんな救命をされたとかは知っておりません。私のおりました防災課は屋内の仕事で、どちらかというとマネジメント関係ですので、現場に行くことはなかなかできず、現場に行くことができたのは一か月以上過ぎてからでした。現場に行った時に感じたのは、それまでに色々な映像を見ていたけれども、臭いが違うということでした。実際に油の臭いがし、埃が未だ立っている状態で、建物も瓦礫もそのままで、行き交う人々も疲れたような感じでした。映像と、現実に目と耳と鼻で感じる現地は全く違うのだということをすごく感じました。

と思っています。遠地津波に対しての東北地方整備局の対応ですが、青森県～仙台までを結ぶ国道 45 号で通行止めをした時に皆様から「津波が来ないのにどうして通行止めをするのか」「アナウンスが悪い」「迂回する場所が無い」など色々なお話があったので、後に今後の対応を検討しました。また河川では水門をいつ閉めるのかということも検討しました。あまり早く閉めると内水被害が出るかもしれない、閉めるタイミングはどうするか、また閉めに行った人が津波にあったら大変なので遠隔操作を進めなければいけないとかです。１年間随分勉強をしました。私のそれまでの津波対応のイメージは、例えば橋であれば津波により運ばれた流木を除ける。港では漁業施設、養殖棚などが流されるのでスクリューなどに絡まないように除去するなど、その程度だったのです。それで 3.11 の災害が発生し、たくさんの衝撃的な映像を見て驚いてしまいました。

最初に、東北地方整備局の防災ヘリ「みちのく号」が撮影した映像をご覧いただきます。宮城県沖地震は都市型の災害という設定もあり、津波で亡くなる方の想定が 250 人位でした。今回の２万人弱とは全く違う規模です。33 年前の宮城県沖地震ではブロック塀が倒れて沢山の人が亡くなっていて、阪神淡路大震災のような災害であったら都市部ではビルが倒れたりガラスが飛び散ったりなどの被害があるのではないかという想定でしたので、まずヘリは市街部を飛ぶ訓練をしていました。したがって 3.11 ではまず市街地に飛んでいます。次に津波が沿岸部に来るだろうから、空港に戻り職員を乗せて沿岸部に行くこととしていましたので、訓練どおりに「みちのく号」は行動しました。通常、操縦士と副操縦士と撮影技師は時間内は待機をしており、震度５以上で指示により飛ぶように、打合せをしていました。40 分は絶対かかるところ、あの激しい揺れの中でも 37 分で飛び立つことができたのは事前準備とヘリコプターの運航を受託している人達の大変な努力があって初めて可能となったのです。これから見ていただくのはそのみちのく号からの映像です。

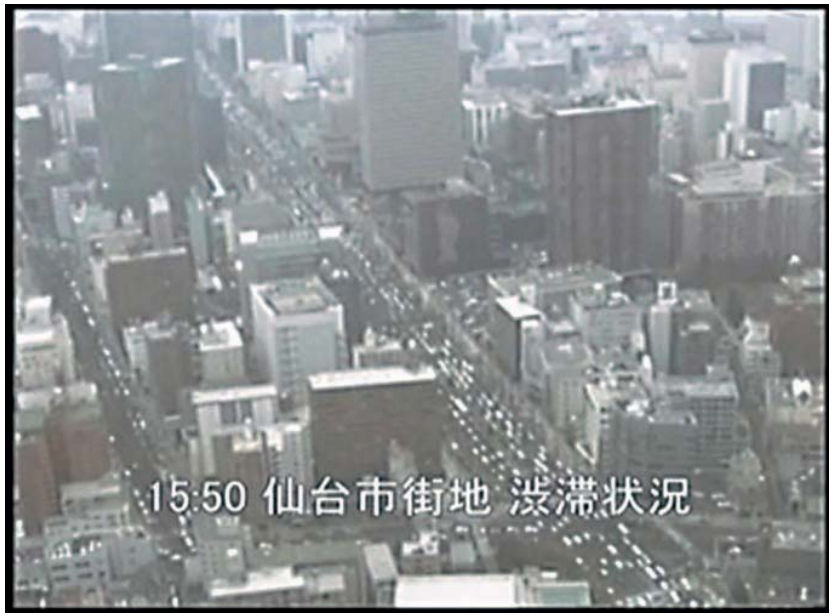
次に見ていただくのは岩手県の釜石港湾事務所で撮影された映像です。大

津波警報が出た時は海を映すということを事前に決めていたので映像が残っていました。地域の皆さんは高い建物の港湾事務所に行こうということで50人程の方が港湾事務所に避難して来られました。映像の声は自分達の家が流されている！という地域の皆さんの声です。

それから最後に、道路にＣＣＴＶという管理用カメラがあるのですが、そのカメラが最後まで映していた映像が一部残っていました。

防災ヘリ「みちのく号」が残した映像

では「みちのく号」の空撮映像からご覧頂きたいと思います。この一年間に沢山の映像をご覧になったと思いますが見ていただければと思います。



地震が起きたのは14時46分です。「みちのく号」が飛び立ったのは15時23分ですので37分後です。「みちのく号」は幸いにも地震の揺れでは傷つきませんでした。先程もお話ししたように、まず仙台市街地の方に行って

熊谷　順子（くまがい　じゅんこ）

東日本大震災の初動対応にあたり、救命・救援ルート啓開のための「くしの歯作戦」をはじめ、リエゾンの派遣など様々な危機管理対応・地域支援に国土交通省東北地方整備局防災課長として第一線で従事。

「東日本大震災」の対応について
— 初動対応～復旧・復興に向かって —

■企画・編集・発行
国土交通省中部地方整備局
天竜川上流河川事務所
〒399-4114　長野県駒ヶ根市上穂南７－１０
TEL 0265-81-6411

■著者
熊　谷　順　子

■印刷
株式会社 宮澤印刷
〒399-4117　長野県駒ヶ根市赤穂４２９５
TEL 0265-82-2571

「語り継ぐ天竜川」の発刊にあたって

天竜川上流河川事務所と天竜川ダム統合管理事務所では、出水期を目前に控えたある１日を『天竜川水防ＤＡＹ』と位置づけ、防災に対する意識向上、緊急時の相互の効率的な連携を推進することを目的に、関係機関の防災担当者が一同に集まり情報共有を図るための各種会議を毎年開催しています。平成 24 年度はこの機会を捉え、東日本大震災における国交省の対応として第一線で任務に当たりご活躍された熊谷順子氏をお迎えし、防災講演会を同日開催しました。「語り継ぐ天竜川」第 62 巻は、このときの講演内容を著者である熊谷氏及び国土交通省東北地方整備局に了解をいただき記録としてまとめたものです。

この伊那谷は繰り返し自然災害と向き合ってきた歴史があります。今後いつ発生するかも知れない突然襲ってくる大災害に対して、我々行政機関はもとより民間も含めてどのように備え、どのように行動すればよいのでしょうか。自らの、そして家族の命を守るために住民の皆さんは何を備える必要があるのでしょうか。

これらの課題に向かっていく上で、本書における東北地方整備局の対応や全国的な支援・連携などの経験は天竜川流域に住む私達にとっても非常に貴重なものになるものと考え、「語り継ぐ天竜川」として発刊することと致しました。

なお、これまでに「語り継ぐ天竜川」をご執筆いただいた方々と同様、自由な立場からお考えを披露していただいていますので、国土交通省の見解とは異なる場合がありますことを付言させていただきます。

国土交通省中部地方整備局　天竜川上流河川事務所
所長　蒲原　潤一